

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2024年冬

156



特集

サステナブル

持続的環境保全 バリ島で考える



公益社団法人 アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」発芽を楽しみに活動の種をまく	02
特集：持続的な環境保全……バリ島で考える	04～07
プラごみ一掃ブルーオーシャン作戦	08・09
平和よ戻れ ウクライナ	10・11
第4回日本語スピーチコンテスト	12・13
「井戸ができた村」	14～17
海外活動ア・ラ・カルト	18～22
生きる価値観をカンボジアで教わった／次世代を育てる大切さを確認／ネパール体験を胸に刻み世界へと目を開く高校生／ネパール貧困地域へM6.3の地震／パンダン水道25周年祝う／ラオスの中学に寮が完成	
「JAFSプラザ」＝国内の活動	23～25
ネパールの餃子「モモ」つくって舌鼓／海外ネットワークの大切さ実感／ゴルフで国際貢献／マイペースで歩き基金に協力	
イベントカレンダー2024年冬	26・27
新入会員紹介・領収報告	28・29
「活躍するアジア人」	30
「環境コラム」	31

巻頭言

発芽を楽しみに活動の種をまく



宮川 真一
アジア協会アジア友の会 理事

「100年かけて日本を変えよう」を合言葉に集まった青年たちは、すでに60歳を迎えていました。2023年10月、40年ぶりに行われた「アジア国際夏期学校（The School for International Experience in Asia (SIEA）」の同窓会には、村上公彦JAFS前事務局長をはじめ前島宗甫牧師（前日本キリスト教協議会総幹事）他10人以上の旧研修生たちが集まりました。SIEAは、前述の二人と小柳伸顕牧師（前関西労働者伝道委員会専任者）が発起人となり始められた企画です。主に関西に住むキリスト教につながる青年男女を夏休みを利用して1～3カ月、アジア各地に送り出し、各々の問題意識にそった経験を通して、その後の生き方を考えてもらうという趣旨で、私も1982年に第4期バン格拉デシュ研修生、第5期の事務局長を務めました。

同窓会の半ば、出席の両先生が「お互いムチャしてきましたなあ」と握手されたのを、かつての研修生たちは感無量で見つめていました。私たちは不思議に多くの者が、神学部以外の学部からも牧師の道を選んでいた。研修地観光局に勤める者、英語教師となった者。そして私も神学部から別の道へと歩みました。SIEAを通してまかれたアジア体験という種が、それぞれの人生の中で発芽し、成長していったのは確かでしょう。

帰国後、私は勉強不足を実感し、当時のシャプラニール現地事務局長であった大橋正明先生に教わった本を読みあさり、団体のボランティアをしたりSIEAの後輩たちを世話したり、JOC（日本キリスト教海外医療協力会）の勉強会に参加しながら医学部再受験を重ねました。医師となり、05年から7年間、JOCバン格拉デシュ派遣ワーカーとして、JAFSにも関係の深いチャンドラゴナ・キリスト教病院で地域医療プロジェクトに従事しました。帰国後は地元で勤務医を続けるかたわら、JOC関連の報告会を開くなどの活動をしています。

19年、所属の日本キリスト教団松山教会が、村上前事務局長を迎え説教をお願いしました。礼拝後に案内した松山城の石垣をバックに「宮川君、インドのクリニック見に行つてくれへんかなあ」とのお誘い。またもや毒牙？にかかった私は現在、JAFSの理事をしています。

そんなある日、今度はウクライナ支援の医療アドバイザーへのオファー。23年11月現在、ユニセフ経験医師・理学療法士・在日ウクライナ人心理士らのチームと2週間に1回程度、現地とオンライン会議を重ね、ミサイルで損壊した病院の復興を現地NGOと進めています。戦争の早期終結に向け、JAFSの即戦力と、長期援助を見据えた姿勢が有効に発揮されることを願っています。

NGO活動では、その「働き」自体も大切ですが、「働き」をシェアすることも同等に重要だと私は思います。そして素敵なJAFS畑での種まきシェアから、今後何が発芽するかを楽しみにしています。

●プロフィール●

みやがわ・しんいち 1959年愛媛県生まれ。同郷の岩村昇医師に感化されてJOCバン格拉デシュワーカーとなり、現在は臨床の傍ら愛媛大学医学部などで国際医療を教える。JOC地区ボランティア委員。JAFSのウクライナ支援医療部門プロジェクトリーダー。2020年JAFS入会、22年理事就任。

JAFS会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
- 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
- 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
- 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2023年3月現在、井戸建設（累計2211基）や植林（累計258万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

マングローブ・棚田を プラズチックごみから守れ



⑥タバナン県の山間棚田で、子どもたちと一緒にごみを拾う
⑤マングローブの根に絡んだごみを掃除して苗木を植える
＝いずれも2023年9月、インドネシア、バリ島



サステナブル

特集

持続的な環境保全とは……バリ島で考える

インドネシアのバリ島に、「環境」をテーマにしてスタディ・ツアーをしました。参加者10人が2023年9月13日から4日間、海岸のマングローブ林や山村の棚田で植林してプラスチックごみを拾い、豊かな自然とともに生きる人々の営みを見て、地球規模で進む環境破壊の状況と持続的な環境保全活動について学んで考えました。

(JAFSスタッフ 川本 裕子)

住民の力で減量・循環

傷ついたカメ、侵食された浜

9月13日

有名なリゾート地・サヌール近くの海ガメ保護センターに、漁網に絡まったり船のスクリューに巻き込まれたりして手足を切断されたカメが保護されていました。お腹にプラスチックごみがたまって苦しむカメが救助されることもあります。甲羅に覆われているので開腹手術ができず、内科的に排出を促すしかないとのこと。砂浜に産んだ卵も人に踏まれたり野良犬に食べられ

たりするので、保護してセンターで孵化して海に帰します。私たちも赤ちゃん海ガメを放流しました。かつてこの周辺では海ガメが食用に乱獲されて激減し、政府が保護を始めたそうです。周辺のサンゴ礁にも破壊が及んでいます。海が埋め立てられ、サンゴが建材や装飾品用に採取されました。今は禁止され保全されているようです。観光客によく知られるクタビーチやテガルベサルビーチで、波によって侵食された砂浜を見ました。ホテルが海に浸かって廃業していました。私たち

を案内してくれた現地提携団体AFSのシディ・ターカーさん（ディアナプラ大学教授）は、地球温暖化による海面上昇の影響と言っていました。過去100年間に世界の海面は平均20cm程度上昇したとの推計があるので、影響が表れやすい場所から浸食が始まっているのかもしれない。

ガムラン音楽の村・ウブド近くの5つ星ホテルは環境に配慮し、客室で使う飲み水の容器は再利用できるガラス、ストローは生分解性のものにし、バリ州政府から表彰されたそうです。

政府の新たな方針で分別処理へ

9月14日

デンパサール空港に近いベノア湾の海岸で、地元の大学生や漁業者とマングローブを植樹。根に絡んだプラスチックごみをカヌーに乗って回収しました。ここは元々の天然マングローブ林を伐採して造ったエビの養殖池が放棄され、その跡が90年代にJICAの支援で植林されました。現在はバリ州政府が管理する大規模森林公園になっています。

2つの大きな河口に、上流からごみが流れ着きます。一方の河口には流量を調整する堰があり、ごみを止める役割もしています。根にごみが絡むと、樹木にも水中の生態系にも悪影響を与えます。それを人の手で回収できるのは、まだ幸運だとも思いました。回収したプラごみで一番多かったの

は、買い物バッグのような袋状シートでした。ただし、バリ州では19年から、店でのプラスチック提供が禁じられています。実際に私がツアー中に買ったスーパードラムでも、各自持参のバッグに入れて持ち帰るのが当然のようになっていました。マングローブ林のプラごみは、2年前のブルーオーシャン作戦のときに写真で見ただけで少なくて感じました。クリーン活動と共にプラスチック提供が減った効果かもしれません。

シディさんの大学と同系列の教会が運営するごみ処理施設を訪問しました。以前はマングローブ林の東にスウェン埋立地という一大ごみ埋立地がありましたが、ごみ山を土で覆って22年に閉鎖されたとのこと。埋立て廃棄していたごみは今は村単位でできるだけ循環利用するように、と政府の方針が変わったのです。その方針に沿ってごみを処理するモデル施設です。次のような循環利用が実施されていました。

- ・野菜くずや草刈りした草→豚の餌に
- ・野菜や草を乳酸発酵→母豚の餌に
- ・豚を繁殖→子豚を売って収益に
- ・稲わら→畑に敷き雑草防止や肥料に
- ・稲わら・落葉や雑草・ヤギの糞→堆肥化して畑で利用、販売し収益に
- ・ヤギの糞→バイオガス化して利用
- ・プラごみ→近隣7カ村で分別収集・回収、ジャワ島の施設でリサイクル

これらを各村が運営するように求められています。この施設モデルを近隣の

村に普及させることが必要です。循環利用が根付くかどうかは、住民の力に委ねられているのです。

ごみ回収費は、政府補助金に頼るだけでなく、各家庭が支払っているようです。課題も出てくると思います。循環利用しきれず最終的に廃棄せざるを得ないごみの行方、ポイ捨てが増える懸念などです。方向を見失わずに乗り越えるよう、応援したい気持ちです。

スウン埋立地を沿道から垣間見ました。まだ土で覆われていない箇所は雑多なごみが積み上がり、周りの道路や水路に、風で飛んだと思われるごみが散乱していました。新方針に沿って状況は改善されるでしょうが、私は、ここで有価物を拾って売って生活していた人たちはどうなったのかと、気になりました。

ディアナプラ大学で教員と意見交換。日本の参加者から、ごみ問題に質問が集中しました。

最初に見せられたスライド写真が印象的でした。「ごみ災害」というタイトル。日本でも報道された、大量のプラごみが流れ着いたクタビーチです。12㍻2月頃にジャワ島から季節風に乗って流れ着いたごみで、バリが原因ではないのに悪いイメージが付いて、とんだ「災害だ」というわけです。

参加者から「バリ島内から海に流出して漂着する分もあるだろう」との意見。バリからの返答は「圧倒的にジャ

ワ島由来が多い。それでもバリは観光地だから、イメージが大切。ごみ問題へ取り組みようとしている」。

別の参加者からは、家庭が支払うごみ回収費が所得と比べて高いのではないか、と心配する声がありました。大卒初任給300万ルピア（約3万円）／月、貧困層の収入120万ルピア／月に対し、回収費は4万ルピア／月。日本の約2600円に相当します。

最後にシデイさんが「次第にあなたたちが、私の妻に見えてきた」と言いました。家でごみの扱いは奥さんの方が厳しく、よく捨て方を注意されるということでした。ところ変われど、日本も同じ。おかしく思えました。



帰りの飛行機の窓から眺めたバリ島。多くの人々の営みと豊かな大自然が交錯する。現代世界の象徴のように見えた

子どもたちとクリーン活動

9月15日

宿泊したホテルに近いクタビーチを早朝に歩きました。朝にごみ清掃が行われると聞いたので、その前の状況を見ようと思ったのです。季節風の時期ではないので、想像したよりきれいでした。歩道や店の前を掃除している人々に、プラごみを集めたらどうするか尋ねたら、詰所のようなところに持って行くとの答。観光地としてきれいに保っているのだと思いました。

ただ、陸側に上がった店や歩道の裏には、ごみが散乱していました。掃除をしなければこういう状態なのでしょう。

観光客によるポイ捨ても疑われます。ビーチにいくつかごみ箱が置かれていましたが、その周りにもごみが散乱していました。あと2歩進んでごみ箱に入れたらいいのに。

ツアー後半は山へ移動しました。シデイさんが、お母さんの故郷タバナン県の山村で、小学生たちが放課後や週末に勉強したり遊んだり、昼ご飯を食べたりす

●●ツアー参加者のひょうげん「コメント」●●

ごみ問題の根深さ実感

西岡伸康 マングローブの根に引っかけた大量のごみや濁った海水に少しショックを受けました。クリーン活動の大変さと、ごみ問題の根深さを実感。フリースクールで生徒たちと一緒にクリーン活動ができたのは貴重な時間でした。充実した教育が必要なのだと感じました。環境問題や国際協力で自分に何ができるか考えたい。

多く学べた有意義な旅

辻本選手 バリ島は4回目。今までと全く違う有意義な旅でした。肉体労働的なボランティアを覚悟していたのですが、年齢を考慮していただいたのか、現地の方々の役には立てなかったなあ、という実感です。ただただ楽しい旅でした。参加者のレベルの高さに圧倒されましたが、皆様のい方ばかりで、学ぶことが多かったです。

植林・ごみ拾いに時間を

佐藤孝敏 第一の目的は、マングローブ林のごみ状況を再確認することでした。20年前に同じ場所を訪れ、ハマザクロのおしべの花筏に見とれた一方、ごみで埋め尽くされた水面を見て幻滅していました。今回は、ごみが大変少なかったことが印象的でした。植

る子どもセンターを運営しているので。私たちが着くと、子どもたちが「もしもし、こんにちは」と声をそろえて出迎えてくれました。

小学校低学年には国語を、高学年には英語を教え、これからはコンピュータ教育も始めるそうです。シデイさんの奥さんと子どもたちのお母さんが作ってくれた昼食をいただき、子どもたちの合唱「コチコチカッチンお時計さん」を聞いた後、敷地内にココナツや果物の苗を植樹。子どもたちと一緒に、村に広がる棚田の周りの小道を歩いてクリーン活動をしました。

実はこの直前、日本から土産に持参した菓子を子どもたちに渡しました。

プラスチック個包装なので、少し罪悪感を抱きながら、「ポイ捨てしないでね」と言ったのですが、食べた端から見事にポイ捨てされ、プラごみが敷地内に落ちていました。センターで私たちに与えられたお菓子は、笹のような葉で包まれていました。プラを使わない暮らしにプラを持ち込んでしまった身ですが、子どもたちにポイ捨てしてはいけないことを心底分かってもらいた

いと願い、一緒にごみを拾いました。道端にたくさんのごみが落ちています。たばこの箱があるので、大人も捨てていると分かります。子どもたちがポイ捨てしないことの大切さを実感してくれ、日本人と一緒にごみ拾いした記憶とともに心に残してくれたら良い

なと思いました。

最後にシデイさんが子どもたちに「みんながお菓子の袋をポイ捨てしたので、日本のゲストが嘆いていたよ。もうしないように」と伝えてくれました。センターを運営するシデイさんの妹サリ・ターカーさんからは「子どもたちにとってごみを拾うことは環境を守る体験となります。それが他の友だちの手本になれば、きれいな自然が保たれ、健康も守られます」とコメントをいただきました。

一軒の農家を訪ね、台所などを見せてもらいながら暮らし方を教わりました。湧水を引き、煮沸して飲み水にしていること、調理はかまどで薪を燃やしていたが、若夫婦はプロパンガスのコンロを好むこと、政府の新方針に沿ってプラごみを分別し、回収してもらっていることなどです。新方針がここでも機能し始めているようです。

帰りの道沿いにさまざまな果物の木がありました。一緒に歩いた子どもが、食べ頃のマンゴスチンの実を一つ見つけて手渡してくれ、皆で食べました。今までで一番のおいしさでした。豊かな自然です。

実はこの朝、村に行く道すがら、シデイさんが、ぜひ見てもらいたい、と小さなヒンドゥ寺院に案内してくれました。神に守られている湧水を村人が大切に使い、薬効がある木や草花がたくさん植えられていました。「バリで

林や、ごみ拾いにも少し時間をかけても良かったのではと感じました。

40年の交流の証に感慨

法花敏郎 シデイ先生の勤める大学に記念の木を植えたら、そばに大きな木がそびえ立っていた。JAFSの村上公彦専務理事らが植えたという。JAFSがアジア各地の海岸などに植えた木は259万本。大きく育ち、緑化と津波被害防止に役立っているに違いない。40年に及ぶ交流の証でもある。

多くの現場見て聞けた

大本和子 多くの現場を訪れ、この目で見、説明を聞き、実にぜいたくな実り多いツアーでした。思いもよらず多方面の専門家が参加されていて、場面面で適切な説明を受けることができたのが一番良かった点です。

環境NGOの生の声を

栗岡理子 かけがえのない体験ができました。一つ欲をいえば、現地の環境NGOから生の声を聞きたかった。例えば、先進国はインドネシアがプラスチックをともに処理できず、住民もその特性をよく理解していないと知りながら、プラ包装の食品や、すぐにごみになるプラ製品を売りつけていることをどう思うか、などです。

海からプラごみ一掃 関心・活動広がる

3カ国10地域でブルーオーシャン作戦



東京・葛西臨海公園



大阪・二色の浜公園



ルソン島・ソルソゴン州マトノグ



世界の海に流出する全量の8割がアジアからという「海洋プラスチックごみ問題」に、JAFSのアジアネットワークAFSを生かして取り組むブル

市民らビーチ・河口で回収

大阪・二色の浜公園（貝塚市）

約80人が参加。ペットボトルの減量に取り組む企業の参加も多くありました。前日の雨で、ビーチ隣の河口からごみが流出し漂着したと思われ、今回は昨年よりごみが多くありました。砂に埋もれる小さなプラスチック片もコツコツと拾い集めました。全部でごみ袋6つ分。ペットボトルや包装プラ、空缶のほか、枕やバケツもありました。（JAFSスタッフ 川本裕子）

量はバケツに半分程度。一旦捨てられてしまったものを回収することがいかに大変かを、思い知らされました。（JAFS関東 川崎隆二）

フィリピン・ソルソゴン州

住民や近隣の小学校と連携し、ビーチのほか今回は川での活動に初挑戦。これまで手つかずでヘドロまみれの場所だったので、子どもたちはへきえきする様子でしたが、住民たちがきれいにすることが重要に気付きました。（AFSソルソゴン ジーナ・ヤップ）

フィリピン・パナイ州パندان

2カ所のビーチで行い、一方は市長を含む行政・軍関係者や各種団体など約100人が参加。もう一方は、アジアユースサミット（AYS）に参加し

インドネシア・アチエ州

地域の学生・主婦・社会人ら37人が参加し、17袋分・200kgのプラスチックごみを回収。活動の様子が地域の新聞にも取り上げられました。（AFSアチエ ウィナ・ワハブ）

次世代への責任感じた／観光地と生活圏、大きな落差

今回は、大阪の会場にベトナムからの留学生、フィリピン・ソルソゴン州には日本のJAFSメンバーが参加しました。お二人が、活動に参加しての感想や現地の様子を寄せてくれました。

グエン・ティ・フォン・チン

（羽衣国際大学生、ベトナム出身）

今年、日本のビーチでごみ拾いに初めて参加し、心から驚きと戸惑いがこみ上げました。細かなごみが多く、地域の美しい自然がこんなにも傷ついていることに衝撃を受けました。砂浜に広がるプラスチック片やビニール、細かなパーツまで、目に見えないところにもごみが散乱しているのを見て、環境への無関心がこんなにも大きな影響を与えているのかと考えさせられました。ごみはただのごみではなく、地球へのダメージとして現れていることに気づかされました。

ベトナムの私の家は山の中にあり、海には観光シーズンにしか行かないので、ベトナムの海の印象はあまりありません。ビーチのごみのほとんどは観光客が捨てたビニール袋やペットボ



＜活動の動画を、上のQRコードからインターネットのサイトに入ってください。＞

を信じ、これからも積極的に地球に優しい生活を送りたいと思います。

山下泰之（JAFS監事）

AFSソルソゴンの協力で短期日本語教室を開いています。当地の活動は、フィリピンの最小の行政単位バラングイの一つタブラック村で行われました。他のバラングイでもAFS主導でクリーンアップイベントが定期的に行われ、多数の参加者があります。この運動の認知度は高いです。

小学校では分別ごみ箱が設置され、環境教育が行われています。しかし、数カ月一度の美化運動から進んでいないのが現状です。まだまだポイ捨てなど意識が低い住民が多いです。

当日の現場からほんの少し離れたリゾートビーチや島は休憩所やごみ処理の有料化で清掃が行き届き、きれいな

＜次の各社・各団体に協力いただきました。共催：「ステハジ」プロジェクト／後援：大阪府、(株)OSGコーポレーション、(株)ウォーターネット／協賛：象印マホービン(株)、タイガー魔法瓶(株)、ピーコック魔法瓶工業(株)、(株)DESIGN WORKS ANCIENT、アノスバ福岡(株)、(株)acc、D4L

平和よ戻れ ウクライナ

避難民の身となり声となり

花村カテリーナさん 心のケアで日本と橋渡し

花村カテリーナさんはウクライナ出身の臨床心理士です。神戸大学大学院人間発達環境学研究科を修了し、兵庫県・淡路島にある関西看護医療大学で2016年から助教を務めながら、現在は、戦火を逃れて来日したウクライナ避難民の心理支援に献身しています。JA F Sが取り組む、空襲で破壊された現地病院の復興プロジェクトにも協力してくれています。一刻も早く祖国に平和が戻ってほしいと訴えるカテリーナさんの思いを聞きました。（JA F S 熱田典子）

私はキーウ生まれです。縁あって、人生の3分の2ほどを日本で暮らしています。しかし、ウクライナは私にとって変わらず故郷です。帰国するたびに、自らの原点に触れては身も心も癒され、満たされる場所でした。

ウクライナへの全面侵略戦争が始まった2022年2月24日。多くのウクライナ人は、この日を境に人生が「それまで」と「それから」に分かれてしまったと言います。当時、私は日本にいました。仕事をしているところに母から電話があり、状況を知りました。その瞬間、これまでの人生ははるか昔の物語であるかのように現実味を失いました。私の故郷、街を破壊し、家族と友人の命を無情に狙う、軍事的侵攻という圧倒的な暴力。それにどう抗うか、自分にできることは何かを考え続けることだけが全てとなったのです。

翌3月、日本政府はウクライナの人



ウクライナ避難民の現状を訴える講演のために愛媛県松山市を訪れた花村カテリーナさん（中央）。協力してくれた子どもたちと=2023年11月9日

愛媛の子らも支援にひと役

2023年11月8・9日、花村カテリーナさんを愛媛県松山市に迎え、聖カタリナ大学看護学科、松山学院高校、日本キリスト教団松山教会などを回る慌ただしい日程でしたが、貴重なメッセージを頂きました。メインの松山市精神神経科医会主催の講演会は私が座長を務め、100人近くが参加。「ウクライナ避難民の現状―心理的サポートの必要性和支援の在り方」と題して話されました。会場では、子どもたちや松山教会の有志が作ったビーズのストラップやクリスマスオーナメントが配られ、写真、カテリーナさんがされている心理カウンセリング活動を応援するための寄付につながりました。（JA F S 理事 宮川眞一）

がやめられない、子どもがウクライナに帰りがっている、などの相談が多くありました。安全な場所で緊張が解け、感情が制御できないほどにあふれ出す人、被災体験や侵略されている事実にもっと触れることができないままの人もいました。

カウンセリングでは何より、①「ひとりぼっちではない」ことを感じてもらえるように、②言葉が通じない日本での生活など自分一人ではどうにもできない事態が相次ぐ中で「私にはできる」感覚を再発見できるように関わることを大事にしました。この二つが、ほとんどを失った状況の中で、生きる希望につながるからです。

避難した方の生々しい語りをきくたびに、胸を締め付けられずにはいられませんでした。誰にも言えないその思いに心を傾けること、時として日本社会のさまざまな場で彼ら彼女らの声となることは、私なりの終戦に向けた戦いであると感じています。

自分にできることを探し続ける。1年半たった今日、その思いは変わりません。侵略戦争が長期化するにつれ、途方もない道のりに心が折れそうになることがあります。しかし、これこそが私の使命だと感じています。それを可能にしてくれるのは、ウクライナで起きていることに関心を持ち、当事者性を持って課題の解決に取り組んでく

々を避難民として受け入れる方針を発表しました。衣食住を整えること、子どもには教育の場、大人には仕事の場を整えることに、当初から数々の自治体や団体、企業が力を尽くしてくださっていました。

一方、私は、彼ら彼女らの心理的ケアを気にせずにはいられませんでした。過去の災害研究や避難民研究からは、被災体験に伴う様々な心理的不調に加え、避難後の数々のストレス（生活を立て直さなければならぬこと、異文化適応など）によって、心理的不調を起こしやすいこと、また、通常と比べて自然な立ち直りが疎外されやすいことが分かっているからです。

「日本語とウクライナ語が分かる心理士がここにいます」。そうアピールしているところに出会いが会いを呼び、外国人女性の会バルヨンの力を借り、赤い羽根募金、日本財団、ゆうちよ財団の助成を受け、22年7月からウクライナ避難民のための心理支援事業を始めることができました。

この事業の特徴は、避難民が、ウクライナ人心理士の専門的なカウンセリングを母国語で無料で受けられることです。今では心の専門家4人がいて、90人以上が申し込んでいます。当初は、睡眠や食欲の問題、抑うつ感、孤独感、無力感、音への過敏さ、パニック発作、避難したことへの罪悪感、現実感の喪失、シエルトー生活時の行動

東京では瀬田敦子さん チャリティコンサート



JA F S 関東では、ウクライナの人たちの平和と安全な暮らしを願って、ポーランド在住のピアニスト瀬田敦子さんのチャリティコンサートを、東京都の日本キリスト教団久我山教会で11月18日に開きました。写真。47人が参加し、熱い演奏と平和への願いが会場を包みました。ウクライナの女の子の歌声や、瀬田さんと同国の演奏家による共演映像も上映。「心に響く素晴らしい演奏」などの感想がありました。

チャリティ参加費は、ウクライナでの医療支援活動に役立てられます。瀬田敦子さんのメッセージ ポーランドには、ウクライナの多くの子どもたちが家や家族を失って逃げて来ています。どんなに親身になっても彼らの苦しみを拭い去ることはできませんが、せめて幼い命を守るために支援の輪を広げたいと願っています。

（JA F S 関東 川崎隆二）

村の中心にできた便利な井戸

井戸は、村人誰もが簡単にアクセスできるよう、村の中心部に建設されました。周辺には病院や老人ホームがあり、患者や高齢者もきれいな水の恩恵を受けることができます。また、井戸は地表水よりも汚染されにくい地下水源を利用していますので、清潔で安全な飲料水を確保することができますようになりました。井戸が建設され、村人たちは水くみのため長い距離を歩く必要がなくなり、真の恵みとなりました。井戸を寄贈してくださり、本当にありがとうございました。



マハラシュトラ州アムラワティ県タマンガオンガ
ディ村 受益者…300人
井戸の形式…ポンプ式（深さ200m）

【寄贈者】鈴鹿 忠文様

【寄贈者】坪内 かず代様

東部州アンパラー県ダマナ地区マハラ村
受益者…75世帯290人、近隣農民220人
井戸の形式…露天式（深さ8m）



井戸の周りにあふれる笑顔

井戸ができたことで、村人たちの生活は大きく変わりました。水くみのために時間を取られ、学校を休みがちだった子どもたちが、毎日通えるようになりました。家族が健康で元気に過ごすことができるようになり、井戸の周りにはいつも笑顔があふれています。この村に良い井戸ができたことを知った周辺の村からも、たくさんの人々が水をくみに来ます。長い内戦の被害で交流のなかった隣村の人々とも、同じ水を大切に使うことで、仲良く暮らせることはとても幸せです。

安全な水が飲める井戸

スリランカでは、大規模な経済危機で食べ物、水、薬、電気など生活に必要な物が倍以上に値上がりし、どう暮らしていくか村人たちは苦しんでいます。安全な飲料水は市販されていますが、多くの村人の収入では買うことができません。女性や子どもたちが水くみを担っていますが、長い道のりを歩いて水源まで行くのは危険が伴い、また、大変な重労働でした。長年、安全な水が飲める井戸を待ち望んでいた村人は、今回の井戸建設を心から感謝しています。



北中部州ボロンナルワ県ランカプラ地区ガムヌ
ラ村 受益者…15世帯60人と近隣農民20世帯80人
井戸の形式…露天式（深さ8m）

【寄贈者】(株)国元商会様

いのち
生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月改定）

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円（パイプライン=25～150万円）
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

汚染のない安全な水

ここに住む人々はとても低所得な家庭で、自分たちの力で安全な飲み水を確保することはとても難しいです。村は工業地帯に近く、川や池の水は汚染されています。浅井戸もヒ素で汚染されています。プーバイル事務所のスタッフや村人たちは、設置された井戸から安全で安心できる飲料水を手に入れることができるようになりました。新しい井戸が完成したことに、村人たちは非常に喜んでます。新しい井戸の維持・管理は委員会を作って村人たちによって行われます。

ガジプール県ナグバール村プーバイルBDP事務所
受益者…周辺村人、小学校教員、事務所スタッフ
井戸の形式…ポンプ式（深さ259m）



【寄贈者】田村伸二・祐子様

【寄贈者】(株)グローアップ様

ガジプール県バニアバリ村バニアバリBDP小学校
受益者…70世帯250人
井戸の形式…ポンプ式（深さ242m）



川や雨の水を飲まなくて済む

村人たちは、汚染されていると知っている川の水を飲んだり、少しでも清潔な飲料水を確保するため、雨水を貯めたり、近隣の村の井戸まで水をくみに行ったりしていました。井戸が完成したことで、「次はいつ雨が降るだろうか」と心配する必要がなくなり、近隣の村へ水をくみに行く必要もなくなりました。バニアバリBDP小学校の児童や村人たちは、設置された井戸から安全で安心できる飲料水を手に入れることができるようになり、とても感謝しています。

水でうるおう村で収入を

ここの土地は赤土で乾いています。基本的に農業で生活していますが、水がないので葉野菜の栽培は難しく、トウモロコシ・豆・ヒエが主でした。それも、土地がやせているので植付けまでに大変な日時を要しました。水がないため米も育てられず、出稼ぎの現金収入で米を買っていました。子どもは成長すると都市に出稼ぎに行ってしまう、老人と小さい子どもだけが残ります。水が通り、収入を得る工夫ができます。村の人たちがこの地域に戻ってきて生活できるように頑張ります。



【寄贈者】吉田幸子 様

バグマティ州シンドウバルチヨーク郡インドラワティ村
ダダガウン集落 受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

【寄贈者】西宮甲陵中学校 様

ヌエバエシハ州ペーヤランダ町サンマリノ村
受益者：30世帯140人
井戸の形式：ポンプ式（深さ34m）



願ひかない自分たちの井戸

村に自由に使える井戸はなく、許可が得られた時だけ個人所有の井戸（深さ15m）から水を分けてもらえましたが、使いすぎたため、3～4年前に使えなくなっていました。それからは、約1km離れた川まで毎日水をくみに行き、虫などを取り除いてから沸騰させて飲んでいました。長い間、自分たちの村のものと言える安全な水源を持たなかった村人にとって、長年の願ひがかなって村に井戸ができたことで、日々の大きな不安が取り除かれ、皆、心から感謝しています。

【寄贈者】北田邦子 様



水くみいらずで勉強・遊び

バグマティ州シンドウバルチヨーク郡インドラワティ村
アスタニガウン集落 受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

子どもたちは学校から帰ると水くみに行くのが習慣でした。これからはその労働がなくなります。学校の宿題をし、友だちと遊べると、大喜びしています。女性たちは家の前に家庭菜園をつくり、葉野菜を育てるための情報を交換し、どの種類から植えようかと楽しそうに相談しています。毎年乾季には、どこの水源の水量が多いかなどの情報を一生懸命集め、歩き回ってようやく水ガメ1杯の水がくめる状態でしたが、これからは心配いらないと思うと、気持ちが軽くなります。

家で水がくめる夢が現実に

この地域で使っていた水源は2015年の地震の影響で水量が減り、水を得るために苦勞をしてきました。これからは各世帯で水をくめるようになるという、夢のような現実が、私たちの日常にやってきました。これからは水の管理が行われて配水されるため、ご寄贈いただいたパイプラインの蛇口から出る水を、安心して飲むことができます。子どもの下痢や病気も減ると期待しています。子どもたちの健全な育成につながっていきます。ありがとうございました。

バグマティ州シンドウバルチヨーク郡インドラワティ村
ダダガウン集落・レイリー集落 受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式



【寄贈者】(株)グローアップサンクス&ハピネス様

話題は水くみから野菜栽培へ

これまでの井戸端会議は水くみの苦勞話が多く、女性たちは水の心配がなくなることを願っていました。今は、どのような作物を植える予定なのか、何を植えてよく実ったかなどで盛り上がり、劇的に生活が変わりました。これからは水道代を払う必要がありますが、今までできなかった野菜作りや家畜飼育により収入を得ることができます。生活向上にこの水が大いに役立ちます。ありがとうございました。機会がございましたら、ぜひ私たちの集落にお立ち寄りください。



【寄贈者】太田宜子 様

バグマティ州シンドウバルチヨーク郡インドラワティ村
ダダガウン集落 受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

【寄贈者】岡部産業(株)様



赤ちゃんの健康に安心感

水を得ることが年々大変になってきていましたが、これからは自分の家で水がくめるという、夢のような日常がやってきました。この集落には子どもが多く、きれいで安全な水を得られなかった頃は、頻繁に下痢をしていました。当時は仕方がないと考えていましたが、これから子どもが誕生した後、乳幼児期を健康に過ごさせることができます。診療所のみで医者が常駐していない私たちの村にとっては、大変大きな安心です。ぜひ、私たちの地域の変化を見にお越しください。

バグマティ州シンドウバルチヨーク郡インドラワティ村
アスタニ集落 受益者：6世帯
井戸の形式：水道パイプライン式

生きる価値観をカンボジアで教わった

「日本に暮らす自分たちの価値観をもう一度見直せるプログラムを体験で

きますか?」。片野坂拓也さんからそんな相談を持ちかけられたのは、



2023年7月でした。片野坂さんは30代半ば。大阪で会社を経営しています。グローバル化が進んで日本に住む外国人も年々増えているのに、自分の日常生活では海外は身近でなく、限定された価値観の中で暮らしていると感じられてならないと言われるのです。片野坂さんや、同じ思いを抱く若い経営者の皆さんと話し合いを重ね、カンボジアのプログラムをしました。11月5〜9日、交流プログラムをしました。テーマは「都会と村の校庭で子どもたちと走り回った。前列中央のペットボトルを持つ人が片野坂さん」カンボジア、タケオ州

生活体験」。日本の経営者がカンボジアの歴史と文化を学び、日本のアニメや料理を通じてカンボジアの子どもたちと交流するという内容です。

子どもたちとの交流は、タケオ州の村と地方都市、計2カ所の学校でしました。村ではコロナ以降、経済状況が悪化した家庭で十分には食べられない子どもたちが多くいます。栄養バランスが取れた、普段より品数の多いカンボジア料理と日本から持って行ったラーメンやお菓子里に、子どもたちは大喜びです。当初予定していた120人以上の子どもたちが入れ替わり、お腹いっぱい食事と交流を楽しみました。

日本のアニメ「ドラえもん」を見た後、子どもたちに将来の夢とその理由を尋ねました。

村の学校では「学校の先生。村でもっと勉強できる機会を増やしたい」「警察官。強くなつて人々や地域の安全を守りたい」「医者や看護婦。家族や人々の健康を守り、病気の人を助けたい」との答えが多くありました。

地方都市の学校では少し選択肢が増えます。「スポーツ選手。強い体にな

ている人は行ってみてほしいです。「百聞は一見にしかず」です。

すてきな笑顔に心洗われました

片野坂拓也

価値観を見直したい、と経営者の勉強会などで出会った仲間の声をかけ、

ての国で継続して育てることが重要で不可欠と確認されました。

最終的には、24年から6年間にAFSネットワーク各団体がする活動の優先順位と方向性を皆で議論し、以下のように決めることができました。

- ①SDGsをめざす持続可能地域をつくる活動…水、食糧安全保障、貧困削減に焦点を当てた活動の実施とネットワーク内での活動内容を共有する
- ②環境事業の促進…グリーンスカウト運動やブルーオーシャン活動の実施。3月22日「世界水の日」/6月5日「国際環境デー」/11月「海岸と川岸のクリーンアップを全ネットワーク国で実施する
- ③災害対応と予防・気候変動適応活動の推進…災害リスク対応マネジメントに関する学習会、セミナーを開く
- ④若いAFSリーダー育成…ヤングリーダーのリーダーシップ促進
- ⑤アジアアカデミーの立ち上げ…タイ・バンコクをセンターとする国際研修活動

これまではJAFS創設者である村上公彦氏の考えに乗っていましたが、これからは皆でAFSネットワークをしっかりと作っていく意思が参加者から感じられました。今後、ネットワークを維持するために国際団体会員制度を設け、会費も集めていきます。

(AFSネットワーク国際事務局長 ジーナ・ヤップ)

今回の計画をしました。参加メンバー5人は平成生まれの30代で、全員カンボジアは初めての訪問です。

交流プログラムでは、学校で学ぶ子どもたちの姿勢からたくさんのもので得られました。自分たちがいかに恵まれた環境で育ってきたかということを感じ、今一度感謝したと同時に、この子たちのように自分は頑張っているのかと深く反省をしました。日本での経営者という立場で、この子たちよりも経済的にも影響力でも社会に貢献できる立場なのに、「自分の幸せは何だろう……」などと考えてカンボジアに来たのが恥ずかしくなりました。これから自分自身を戒め、世の中に貢献していきたいと強く思いました。

村からの帰りにキリングフィールド(チュンエク大量虐殺センター)を訪れました。カンボジアの今の社会情勢を作り上げた歴史はとて残酷で非道なものでした。それほど昔の話でないあまりにも厳しい現実を知り、苦しんで前に進めないのではないかと思いましたが。しかし子どもたちの笑顔で学ぶ姿勢を見た時に、「あ、世界の大人がまず変わらないといけないな」と素直に思いました。まず、自分たちができることは一生懸命誠実にする。そして世界がより良いものになるよう、この人生をもって貢献していきたい、活動していきたいと願っています。

滞在中はカンボジアの人々の、特に

次世代を育てる大切さを確認

AFSネットワーク会議がタイのバンコクで2023年10月23〜27日、11カ国の47人が参加して開かれました。写真。3年ぶりの対面開催で参加希望者が多く、会議目標はほぼすべてのテーマについて達成できました。

今回の成果は、まず各AFS支部が参加費用を分担して参加できると証明されたことでした。JAFS事務局長が変わった中で最新情報が共有されるという期待が大きかったためもあるでしょう。おかげで共通理解が促進されました。

「AFSネットワークは関係性が素晴らしく存在意義があり、地域協力・平和・友好に貢献する活動を実施するための重要な国際プラットフォームである」との共通認識を参加者全員が最初に確認しました。日本JAFSにセンターの役割を引き続き担ってもらいますが、プログラムやイベントによつては他の支部が主導しながら進めて行くこととなります。

特に素晴らしかったのは、次世代を育てる大切さについて全ての世代から声が上がったことです。これまでアジアユースサミット(AYS)は別プロ



グラムのような位置づけでしたが、AFS全体の活動として正式に統合され、AFSネットワークの次世代を全

ネパール体験を胸に刻み 世界へと目を開く高校生



京都府宮津市にある聖ヨゼフ学園京都暁星高等学校は、JAFSを通じて生徒たちに欧米以外で国際経験をさせて視野を広げ、日本でのボランティア活動に生かさせたいと、ワーキングキャンプを04年からフィリピン、次いでネパールでは毎年開いてきました。18回目となった23年は、生徒たちがネパールでシンドウパルチョーク郡インドラワティ村の農業センターに宿泊ま

りし、JAFSが取り組んだ水道パイプラインの敷設を手伝い、村の小学生と一緒に小学校の柵のペンキ塗りをしました。さらにコーヒー園で植樹し、別の小中学校を訪れて交流を深めました。同高校の永島則子教頭先生が、ワークキャンプの模様をレポートしてくれました。内容を要約して紹介します。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

村人と手作業で水道パイプラインを敷設する生徒。ネパール、インドラワティ村

9月19〜26日、8人の生徒と担当の仁科浩先生と共にワークキャンプに参加しました。初めてのネパール。見るものすべてが新鮮で、初めから終わりまで心が躍りました。帰国して、生徒たちの感想を読んだりしながら、ネパールでの体験が生徒たちに具体的な変化として現れる様を見ています。

03年、創立116年目を迎えた本校は新しい土地を得、それまでの女子高から男女共学校となつて新築移転しました。1学年70人程度の少人数教育を掲げていたので、活発な体育クラブ活動は望めず、質の高い体験を様々な提供する体験教育に力を入れようとしていました。

いくつかのプロジェクトを実際に現地に行つて検討しました。日本からの距離を考えて、アジアの新興国で、安全が確保されることが必須でした。その結果、フィリピンの山の上の村に小学校を建てるプロジェクトへの支援が決まりました。学校移転の翌年、第1回のワークキャンプをしました。狙い通り、いや、それ以上に、参加した生徒たちのキラッキラな笑顔に出会うことができました。

コロナ禍でキャンプをできなかった3年を経て23年、4回目となるネパールワークキャンプを再開しました。例

年は受験に触らない2年生の秋休み（本校は2学期制で、秋に2週間程度の休みがある）にしていたのですが、今回は3年生も可とし、最終的に8人の生徒が参加することになりました。円安や燃料代高騰の折、決して安くない参加費でしたが、保護者もこんな体験は今しかできないと、生徒本人の背中を押してくださったと聞いています。

海外での体験プログラムは「安全」とともに、体を使う「ワーク」と現地の人々との「交流」が豊かであることが大切だと思います。今回のプログラムはどの観点からもうすぐれていました。村の人々と一緒にしたパイプライン敷設、特産品にしようとして取り組んでおられるコーヒーの苗の植樹、子どもたちと一緒にした小学校のフェンスのペイント、小学校を訪問して踊ったり遊んだり、苦心して持つて行った文房具を手渡したり、本当に充実した時間でした。子どもたちや村の人々との交流は、生徒いわく「めっちゃめっちゃ楽しかった！」そうです（私は疲れて寝てました）。お互い片言の英語でのコミュニケーションだったので、「もっと英語が話せたらよかった」とも言っていました。

2000級級の高地にある村での体験は、思ったとおり体力ぎりぎりでしたが、ベースキャンプには医療スタッフまでおられ、私たちの生活を支えていただきました。

ネパール貧困地域へM6.3の地震

2万7千戸が倒壊、避難・救援まだ進まず

ネパールから帰って、生徒たちの深い変化や成長に出くわしています。「すごく勉強するようになりました」と担任。リーダー的な立ち位置を経験し、生徒会長に立候補した生徒は「ワークそのものは自分たちが役に立ったとは思わない。村の人たちとの体力の違いを見せつけられた。つながった水道を見に行った時、その家の方がとても喜んで感謝された、その笑顔がうれしかった」と話します。参加した私たちの中に村の家族の笑顔が刻まれ、「共に生きる人」になっています。

ガッタガタの道路をトラックの荷台に乗って作業場に行き、ヘロヘロになったワーク、持つて行った縄跳びやボールや折り紙で笑顔いっぱい遊んだ子どもたち、家の横で飼われている牛やヤギや豚の匂い、体が見えないほどの草をかついで山道を歩く村人……。美しい朝の雲海とともに忘れられない記憶として刻まれました。いただいたそれらの記憶の数々とともに、生徒たちは生きていくことを思います。

楽しさや便利さだけを求め、自分の生活のことだけの日本の生活が当たり前ではなく、ネパールで出会った人々の記憶とともに生徒たちが生きていくてくれると思うと、ワクワクとした気持ちになります。生徒一人ひとりこれからの生きるの時間の中で、それぞれさらにどんな形になっていくのか、本当に楽しみです。



地震の揺れで壁が崩れ落ちた家＝2023年11月5日、ネパール、ジャジャルコット

団体の活動状況の情報集約がされることになりました。

ジャジャルコットはカルナリ県の中央部に位置し、面積は2230km²ですが、海拔1524〜7337mの高地にあり、97%は急な斜面です。カトマンズからの直線距離は約300kmですが、移動距離は578kmあります。

この地域の経済的活動人口は男女ともに50%を切っており、8万世帯のうち3万世帯が貧困線以下で暮らしていることが、11年の国勢調査で報告されています。15年の地震の被災地ではなかったのですが、復興・開発協力支援が入ったことがほとんどなく、取り残された地域の一つでした。現地は主体的に手立てをする術がなく、余震が483回（11月9日現在）を越す中、生きることで精一杯の日々が続いています。防水シートなどの避難所資材が非常に必要となっています。特に毛布とマットが不足しています。

余震が続く、さらに家屋が倒壊する危険があるため、多くの住民が屋外での生活を余儀なくされています。避難

所が不足して危機的状況です。食料はさまざまな団体から支援が届き、現在のところ安定提供されています。

特に、ダルマと言われる村は一番被害が大きく、緊急支援が必要となっています。給水システムが破損し、地域の人たちへの水供給が止まっています。また、衛生用品の供給、通信も不安定です。携帯電話通信が安定的に供給されることが必要です。被災者たちの健康状態がこれ以上悪化せず、精神的な健康も保てるような医療サービスを含めた緊急人道支援と、危機時の人命救助が求められています。

ルクム西地区も1万6570世帯の家が完全に破壊され、避難所支援が急務であると報告されています。

私たちAFSネパールは、さまざまなNGOが協力して支援することにより、被災者世帯が多いこの状況を解決できると考えています。私たちもその中に参加し、一人でも多くの被災者の避難生活を支えることができればと思っています。

第一次支援としてカトマンズから衣料品を現地に届けました。これからどんどん気温が低下していく現地の状況に対応するため、テント、寝袋、毛布、防水シート、ダウンジャケットなどを届けます。日本の皆さまのご支援ご協力をお願いします。

(AFSネパール代表
クリシユナ・ネパール)

パンダン水道25周年祝う



1992年にフィリピン留学生からかかった電話から始まったJAFS最大のプロジェクト、パンダン（パナイ島）の水道パイプライン。2023年で現地の水道局が25周年を迎え、10月2日に記念式典が行われ「写真」、日本から8人が出席しました。主催者と来賓のあいさつ、感謝状授与、そして会食の順で盛大に行われ、出席したフィリピンと日本の功労者全員に感謝状が授与されました。参加したお2人の声をお届けします（敬称略）。

松久敏彦「水源では、創設時にはなかった電気が届き、配水池への送水用の水中ポンプと滅菌装置が追加されたことを確認し、配水池でも膜ろ過装置が追加されて高度な浄水処理が行われていたことを確認できました。大変な

驚きでした。今ではパンダン町は「安全でおいしい飲料水が得られる町」として知られるまでになっているということ、とても誇らしく思えます」

田中登「4月に天に召された父・田中久雄に代わり、息子と共に参加しました。当時JAFSの理事をしていた父は、この事業が実現可能なかを確かめるために何回も現地を訪れ、プロ

トイレも一新 ラオスの中学に学生寮完成

JAFSが2022年に呼びかけたクラウドファンディング「ラオスで10

キ離れた村から通う子どもたちが安心して安全な学校生活を送れるよう学生寮を建設したい！」に寄せられた資金で建設していた、同国ポンサリー県ブン

ジェクト推進リーダーとして自ら率先して動きました。ただ人のためだけにという私心のない行動が生かされた一つの集大成だと思います。その一片でも知ることができ、息子にも直接見せることができました。現地の方と直接触れ合っ得たものは、何物にも代えがたい経験だと思います」

(JAFSスタッフ 岡本佳子)

ヌア郡、ナンフェ中学校の寮が完成しました「写真」。

ブンヌア郡は、66の村から構成されています。総人口は2万5014人（うち女性は、1万2227人）、4844世帯です。中国と国境を接し、天然資源に恵まれた地域の一つです。

ナンフェ中学校は、ブンヌア郡の街から25km離れたところにあり、周辺の7つの村から子どもたちが通っています。家から学校までの道のりが遠い子どもたちが、この新学生寮に住み、学校生活を送っています。

以前はトイレが外にあり、建物もボロボロでした。新しい寮では、建物の中に完備されています。

次号で、この学生寮を利用している子どもたちの声や様子を詳しくお届けします。ご支援いただいた皆さまに、心より感謝いたします。

(JAFSスタッフ 坂口優)

留学生から話聞き



ネパールの餃子「モモ」をつくって舌鼓

「ネパールデー」という催しを10月14日、学び合いを通して生活向上を目指すグループ「大阪友の会」と一緒に「大阪友の家」で開きました。在留ネパール人は大変多くなっていますが、ネパールについて知る人はまだ少なく、知ってもらうにはどうしたらいいだろう……と思う中、幼児時代を大阪友の家の生活団で過ごし、その後自由学園で学生時代を送った私にとって身近な友の会に協力を依頼しました。

午前中はネパール餃子「モモ」を作って皆で味わい「写真」、午後は現地の中学生が描いた絵の鑑賞とコンテストをしました。さらにネパール出身の3人の女性留学生に、現地の水や生活のこと、なぜ日本で学んでいるのか、母国に戻った後どんなことをする予定なのか、などを話してもらいました。大阪友の会の有志が「自国の人々の生活をよくするために学んでいる彼女たちを、心から応援したい」と留学生への支援を申し込んでくださいました。

この企画で、JAFSの活動をさらに知っていただけて、うれしかったです。数人参加してくださった日本の学生も「ネパールの人たちと直接ふれあい、現地の味を味わえてよい機会だった」と喜びの声を聞かせてくれました。これからも、このような出張講座を定期的にできればと考えています。

(JAFSネパールへのかけ橋

長克宣)

来館者参加型で活動アピール



大阪府の寝屋川市民活動センター主催の第20回ふれあいフェスタが11月19日、市民会館で開かれ、54の市民団体・サークルが日頃の活動を広く市民にPRし、新しい仲間の拡大を競い合いました。JAFS寝屋川地区も展示部門で参加しました。

今回は、これまでの少し硬いイメージだった展示を「来館者参加型」にし、水がめ持ち上げ体験やネパール学生による絵画コンテスト「写真」を試み、投票などを通じて、多く人の関心を引くことができました。

第2回「水」写真コンテスト受賞作やJAFSの活動も紹介し、地区活動を見ていただく市民交流の場になりました。

した。
地区世話人の高齢化による活動の硬直化などの課題は多くありますが、今

後も新しい切り口で地区活動を展開していきたいと思っています。
(JAFS 寝屋川世話人 笠谷正博)

海外ネットワークの大切さ実感

大阪府高槻市市民公益活動サポートセンターの開設20周年を祝う「第19回たかつきNPO協働フェスタ」が9月10日、同市立生涯センターで開かれました。センターはボランティアやNPOなど市民活動と市の行政・企業をむすび、活気ある市民活動と住みよい街づくりをめざす活動拠点施設で、私たちはJAFS高槻もそのメンバーとして参加しています。

建設や里子支援の活動を紹介しましたⅡ写真。3階では、25年前にフィリピンで建設したバンダン水道プロジェクトをもとにした映画「セカイイチオイシイ水」を上映。「こんな良い映画、涙がでました、感動しました」との声をもらいました。映像の力は大きかったですが、海外ネットワークを持つのはJAFSだけという存在の重要さも感じました。

1階展示会場でパネルを使い、井戸

フェスタには約30団体が様々な趣向で参加。人形や工

作、おもちゃ病院などには親子連れが並び、大盛況でした。

大阪ボランティア協会理事長である早瀬昇さんの記念講演も、社会的孤立化が各世代とも進む現状と、自立した市民活動の可能性を示唆するもので考えさせるものでした。

(JAFS理事 齋藤公代)



ネルを展示し、ネパールグッズをチャリティ販売しましたⅡ写真。

水瓶に水を入れて子どもたちが持つて歩く体験コーナーも、久々に設けました。販売時間前から、たくさんのお客様が品定めをしておられました。毎年グッズ販売を楽しみにしているお

鳥取から初参加も。ゴルフで国際貢献

アジアフレンドシップ国際基金の第6回ゴルフコンペを2023年12月1日、兵庫県加東市のABCゴルフ倶楽部で開催した。

このゴルフ場では毎秋、男子プロのトーナメントが開かれ、高速グリーンでゴルフファンには知られている。このコースでの当コンペ開催は22年12月に続き2回目で、前回と同数の13人が参加した。中には鳥取市から遠路駆けつけた初参加の方も。

天気は少し寒かったものの、快晴に恵まれた。記念撮影Ⅱ写真Ⅱの後、4組に分かれ、ベテラン・キャディの的確なアドバイスを受けながら、18ホールのプレーを楽しんだ。

ラウンド後の表彰式では、当コンペ初参加の4人の方にJAFSから国際基金協力への感謝状を贈呈。その後、成績に応じて全員に賞品が贈られ、にぎやかに次回での再会を期した。

(アジアネット編集アドバイザー

松本督)



シュートレンで 比とスリランカの 子ども支援しよう

バザールカフェウィエスタが2023年11月23日、京都市上京区のバザールカフェで開かれました。天候に恵まれ、多くの方が来場されました。京都地区会では7人が協力し、活動紹介と地区世話人の福井さんが作った洋菓子和菓子とコーヒーマスの販売をしましたⅡ写真。クリスマス仕様のシュートレンや焼き菓子が大人気!! 次から次へとお客さんが訪れ、完売しました。出展者や来場者には学生も多く、店番を交代しながら、それぞれの活動について情報や意見交換をすることができました。1月までシュートレンの注文を受け



マイペースで歩き基金に協力

参加費で「アジアフレンドシップ夢基金(アジアの人々の福祉向上のための基金)」に協力するために2021年にスタートしたJAFS歩く会が23回目を迎えました。今回は11月16日、大阪府交野市にある大阪府民の森ほしだ園地を歩き、星のブランコ(全長280m、地上高50mの木床版吊り橋)を楽しみましたⅡ写真。

この歩く会は毎月第3木曜日に実施。今までに京都・鞍馬山、明石公園・大蔵海岸、奈良・今井町など、ある時は山、ある時は海、ある時は街歩きなど、関西のさまざまな所のウォーキングを楽しんでいます。参加者の最高齢は85歳! 年齢にかかわらず、どんなでも自分のペースで参加いただけます。

ています。材料費を引いた協力金は、フィリピンとスリランカの子ども支援に充てます。お正月のお土産にいかがですか? お問い合わせはJAFS事務局・岡本まで。

サプリ村野フェスタに今回も参加



「出会いにぎわい 高めあう」をテーマにして、大阪府・ひらかた市民活動支援センター主催のサプリ村野NPOフェスタ2023が10月22日に開かれました。JAFS枚方地区会は、ほぼ毎年出展しています。コロナ禍の年はYouTubeで開きました。

今回は、第2回「水」コンテスト受賞作品とJAFSの活動を紹介するパ

今回の下りは急な階段の連続で、結構きつかったですが、それぞれのペースで歩き、事故もなく楽しめました。出口近くで見つけた「ぜんざい」ののぼりに引き寄せられるように、参加者の大半が寄り道。歩くだけでなく食も楽しみ、気楽にやっています。

参加者は毎回10人程度で固定化傾向。

新しい参加者を募集中です。
(JAFS会員 大本和子)

● 投稿規定 ●

本欄では、国内各地のJAFS会員の皆さんの活動ぶりを紹介しています。誰が、いつ、どこで、どのような趣旨で、どんなことをしたか、などをかみくだいて分かりやすく書き、筆者名を添えて、「JAFSプラザに掲載希望」と明記し、メール、郵便、ファクスなどで事務局へお送りください。写真付きを歓迎します。原稿をさらに推敲・編集したうえで掲載させていただきます。

JAFSチャリティイベントカレンダー

2024年冬



月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
1月	9日(火)	西区	第408回JAFSそうすいの会 ネパール報告	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 20名	最近ネパールのパイプラインプロジェクトに参加されたボランティアスタッフが報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：土本花す子 手先から肘までをマッサージします。不思議なことに身体も温まります。お互い練習台になって、ヘアで練習しますので、お友達でご参加されてもOKです。実際に練習する方は「爪切り」してご参加ください。持ち物：ハンドクリーム・フェイスタル ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	9日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞かせします。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	10日(水)～28日(日)	堺市	第5回「氣になる玉手箱展」(兼第25回新春チャリティ展)	11:00～18:00 最終日17:00	ギャラリーいろはに 堺市堺区甲斐町東1-2-29(山之口商店街中ほど、阪堺線淀院駅より徒歩2分、南海本線堺駅より徒歩12分)	無料	毎年恒例のお正月チャリティイベント「氣になる玉手箱展」が今年も開催されます。(今年で通算25回目です)カレンダー・手帳などが販売され、全額JAFSの海外支援に寄付される楽しいバザーです。ネパール大地震被災者支援募金も行います。 ●窓口：佐藤満昭 090-2066-1929
	10日(水)	生駒市	アイビー歌声サロン in 生駒	12:30～14:00	生駒市北コミュニティセンターISTAはばだき リハーサル室 生駒市上町1543(近鉄けいはんな線 白庭駅より徒歩10分)	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8371-5151
	13日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第5回 日本と比べて見ればよくわかる韓国	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	立命館大学コリア研究センターの生駒智一客員研究員が、兄弟国と言われながらも近くて遠い国でもある韓国について、両国を多角的に比較品ながら細解きます。尚、終了後17:00-18:30新年会を開催します(会費1,000円)。●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	18日(木)	未定	第25回JAFS道楽の会 ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	23日(火)	西区	JAFS会員新年会	18:30～20:30	西船場会館 大阪市西区京町堀1丁目11-30 JAFSより徒歩10分	2000円(夕食、フンドリンク付き)	コロナ禍の間、開催を見合わせておりました新年会を3年ぶりに開催します。どなたでも参加いただけますので、親睦と交流の輪を拡げましょう。 ●窓口：事務局 柿島 TEL:090-1021-6834
	25日(木)	京都市	第12回アジアを知らう学習会&新年会	18:00～20:00	日本基督教団洛西教会 〒603-8332 京都市北区大將軍川端町95 市バス「大將軍」下車徒歩1分	2000円(夕食付)	JAFSの大きな特徴であるAFSネットワークについて、創設者の村上公彦氏よりお話を伺います。その後、温かい鍋を囲んで、夕食交流会をおこないます。 ●(要申込)事務局岡本まで
2月	3日(土)	西宮	第28回西宮国際交流デー ●当日ボランティア募集	10:00～16:00	フレンテ西宮 4・5階 JR「西宮」駅 駅南出口すぐ	—	民族音楽パフォーマンス、インターナショナルカフェ、にほんごスピーチ発表会、各国の物品販売、バザーなど。 JAFSは4階にてアジア雑貨の物販で出店します。
	3日(土)～4日(日)	梅田	関西最大の国際協力の祭典 第31回ワンワールドフェスティバル	10:00-17:00 (2日目16:30)	梅田スカイビル1/3/4階 JR大阪駅中央北口から徒歩7分 阪急大阪梅田駅茶屋町口から徒歩9分	無料	JAFSは3階ステラホールのNGO・NPO国際協力関連ブースに出展します。様々なステージ・プログラムやセミナー・ワークショップの他、世界各国の民族料理が楽しめるみんなのキッチンなど盛りだくさんの内容を満喫できます。詳しくはワン・ワールド・フェスティバルHPをご覧ください。
	4日(日)	富田林	金剛山登山	8:00～15:00	金剛山の山頂への登山です。 集合：南海高野線・河内長野駅バス乗り場	1000円 定員 15名	地区恒例の金剛山・登山です。 山頂付近では雪の中を歩きます。頂上での暖かい昼食も楽しみます。メンバーの体力に合ったルート選定でベテランが案内します。詳しい案内は、JAFSホームページをご覧ください。 ●窓口：渡辺治彦 090-4278-6556
	10日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第5回 モンゴル遊牧民の伝統と革新	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	国立民族学博物館名誉教授の小長谷有紀氏から、伝統的な騎馬民族であるモンゴルの姿から、現代のSNSでの情報交換に余念のない現代モンゴル人の姿までをわかりやすく説いていただきます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	13日(火)	西区	第409回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 20名	アジア支援のプロジェクトに参加したスタッフが報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	13日(火)	西区	ワンコインセミナー「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：土本花す子 手先から肘までをマッサージします。不思議なことに身体も温まります。お互い練習台になって、ヘアで練習しますので、お友達でご参加されてもOKです。実際に練習する方は「爪切り」してご参加ください。持ち物：ハンドクリーム・フェイスタル ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	13日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞かせします。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	13日(火)	西区	ワンコインセミナー「けん玉教室」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：横山 享利 子どもの頃に遊んだけん玉ですが、大人になっても上手にできるように先生が丁寧に教えてくださいます。子どもに戻って頑張りましょう!! ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123

	13日(火)	西区	ワンコインセミナー「バルーンアート講習会」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：谷阪 洋子 風船で犬、キリン、キティちゃん、トトロ、くまモンなどのキャラクターや季節のグッズを作製します。とっても可愛い作品ばかりです。 是非、参加して一緒に作りませんか!! ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	17日(土)～21日(水)	マレーシア	「多民族国家マレーシアでボランティアするスタディツアー」～ロヒンギャ難民や孤児支援&現地大学生との交流&観光～	左記日付は現地集合・解散日	2月17日(土)朝クアラルンプール国際空港集合、2月21日(水)15時頃 ペナン空港にて解散(往復航空券は各自手配、またはツアー申込先旅行代理店に依頼)	98,000円(航空運賃や海外旅行保険料等は別途)	◇多民族・多文化・多言語が共存する社会を体感 ◇ロヒンギャ難民や、孤児院で暮らすストリートチルドレンを取り残さない心を伝えるボランティア活動と交流 ◇マレーシア学生が案内するマレーシア科学大学キャンパスツアー ◇クアラルンプール観光・ペナン観光 ●詳細問合せ先：事務局 川本 06-6444-0587 ●申込み先：オルタナティブツアー 06-6409-4333(※切1/15)
	24日(土)	平野区	JAFSなになぬ地区会主催 第8回ノアノアフエスタ ノアノア落語	13:30～1600(予定)	〒547-0012大阪市平野区長吉六反3-1-32 アークシヨップノアノア (大阪メトロ谷町線長原駅より徒歩約8分)	1500円予定(軽食・喫茶付)	露のききょうさん 露の陽照(つゆのあきら)お二人の落語家の落語を楽しみながら、交流・懇談のひとときを共に過ごしましょう。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	25(日)	大阪市内	大阪マラソン2024	10:00～17:00	スタート：大阪府庁前 ゴール：大阪城公園 主なコース：天神橋6～淀屋橋～難波～なにわ筋～今里筋	無料	大阪マラソン2024へ出場されるJAFSチャリティランナー13名の応援を沿道でします。 ●窓口：事務局 熱田、坂口 06—6444-0587
3月	上旬の土日	富田林	寺内町・ひな巡り	11:00～14:00	富田林・寺内町界隈 集合：南大阪線近鉄 富田林駅前	1000円 定員 15名	コロナが明けて、従来通りの「ひな巡り」の開催となります。寺内町の旧家に飾られる「雛人形」や「飲食・模擬店」が楽しめます。(注)富田林市広報からの具体的日程が発表されればHPに掲載します。 ●窓口：渡辺治彦 090-4278-6556
	9日(土)	京都市	第6回竹中真京都チャリティピアノコンサート ～あなたの支援で子ども達が変わる!～	14:30～16:30	日本基督教団京都教会 京都市中京区富小路通二条下る俵屋町197 京都市営地下鉄「烏丸御池駅」または「京都市役所前駅」より徒歩5～8分	前売り 2500円 当日 3000円	ジャズピアニスト竹中真氏をお迎えし、チャリティコンサートをおこないます。1000曲以上の幅広いレパートリーがあり、ジャズスタンダード、ポップス、クラシック、日本や世界の伝統的な民謡や童謡など、多岐にわたってお楽しみいただけます。協力はフィリピンとスリランカのこども支援に充てさせていただきます。
	9日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第7回 中越国境地域沿岸部の市場と民族	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円	天理大学国際学部の岸澤知広教授から、中越国境地域の民族の動態について広東人の移動と市場の支配という観点から掘り下げてお話しいただきます。●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	12日(火)	西区	第410回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 20名	アジア支援のプロジェクトに参加したスタッフが報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	12日(火)	西区	ワンコインセミナー「ハンドトリートメント」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：土本花す子 手先から肘までをマッサージします。不思議なことに身体も温まります。お互い練習台になって、ヘアで練習しますので、お友達でご参加されてもOKです。実際に練習する方は「爪切り」してご参加ください。持ち物：ハンドクリーム・フェイスタル ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	12日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り上げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞かせします。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	12日(火)	西区	ワンコインセミナー「バルーンアート講習会」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：谷阪 洋子 風船で犬、キリン、キティちゃん、トトロ、くまモンなどのキャラクターや季節のグッズを作製します。とっても可愛い作品ばかりです。 一緒に作りましょう!! ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	21日(木)	未定	第26回JAFS道楽の会 ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	27日(水)～4月1日(月)	北区	第18回NPOフェスティバル及び第3回水写真展	11:00～17:00	阪急うめだ本店9階祝祭広場	無料	第18回NPOフェスティバルにて、JAFSのブースを出展します。合わせて、第3回水写真展も開催いたします。 ●窓口：事務局 熱田、坂口 06-6444-0587

●緑とふれあう農園の作業日

<場所> JR星田駅より徒歩8分 1/13(土)、1/27(土)、2/10(土)、2/24(土) 午前9時～12時
3/9(土)、3/23(土)、4/13(土)、4/27(土)、5/11(土)、5/25(土) 午前8時～11時
<内容> 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合いましょう! はじめて参加される方は事前連絡ください。

集める
キャンペーン

♡「もったいない」のきもちを社会貢献へ♡

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

〇**書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン**：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。

〇**服、アクセサリ、カバン等**：貰ったけど敬回しが使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

年賀状の書き損じは
ありませんか？

断捨離 × 国際協力

もったいないを力に！

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。
その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。

洋服(春・夏服)
※冬服は9月以降にお願いします

靴

本/CD/DVD

服飾品
アクセサリー等

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩 10 分

KANAU

〒544-0025
大阪市生野区生野東 2-2-15
☎ 090-4161-0236 (青木)

詳細 ▶

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）
2023年9月1日～11月30日

●社員会員
神野哲／木村将明

●維持会員
桐山定雄／森榮／横井加奈代

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）
2023年9月1日～11月30日
なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

池田直樹／井上勇一／岡本圭司／小原純子／小原孝彦／小林道明／メ木泰輔／中嶋啓子／中西武雄／加納道代／福岡名津子／福澤邦治／松原正／森梢／山田啓輔／米田明正／吉田郁夫

●維持会費

浅尾佐江子／安宅義人／新井隆郎／池田時造／石若達弥／市川秀一／井上邦子／岩田芳晴／岩坪小夜子／上田慎子／植田延江／植村茂／植村ルリ／宇田喜美子／宇野和子／岡本就介／置田義男／小野孝博／金子文子／壁谷桂子／河合忠和／河口正隆／北村真澄／桐山定雄／小橋伸子／櫻井曉美／佐藤高／佐藤根恵美／澤村和子／品木吉明／白國哲司／高瀬みよ子／辰巳桂子／田仲拓二／田中英夫／谷阪洋子／玉木町子／辻井昌子／坪倉幸弘／手束光子／寺山正道／戸田恭子／富永たけ／永江敦子／中尾和子／中島繁／中西正喜／

●インドネシア植林支援寄付
JA F S生駒地区会

●スリランカ指定寄付
岡本朋子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
安藤幹雄／貫清隆／法花敏郎

●ネパール・ピトゥリ基金寄付
熱田典子／マツラジャンマン

●ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸

●ネパール栄養改善教育支援
大阪友の会 委員会有志／末永雅典／東代清隆／渡辺治彦／渡邊瑠璃子

●ネパール学校建設支援寄付
佐登／富田林地区会／JA F Sネパールへのかけ橋／横田美智子

●フィリピン・インド教育支援寄付
佐登／JA F Sハルハロ

●地球幸せ募金
小代利子

●東日本大震災復興支援寄付
東代清隆

●ネットワーク支援会
明見睦子／石神誠／石原基義／一貫坂彰／伊藤誠／上野孝一／岡田一／越智翼／小原純子／岳山修／川端勝／樺力ンボー／櫻井紘哉／佐藤眞子／佐野光彦／田中壽美子／鳥居建十／中村春男／西川京子／野池徹／福岡名津子／法花敏郎／水ノ上成彰／村上公彦／毛利吉男／山本宏昭／吉田暢子／渡部高明

●賛助会員
大谷保男／北川從子／小島ゆか／白木和晴／西岡伸康／野瀬田豊

●里親会員
若山治子

中橋康治・真由美／永原幹男／中山康夫／西垣光代／西野節子／野井洋正／橋詰英子／橋本芳樹／春名竜太／平川輝子／福岡仁／藤井いずみ／藤田高淳／古谷佳世子／前田恵／前田安太郎／三島明美／水城実／水ノ上成彰／三林寿子／宮田奈美子／向井宏之／武藤三代子／安田勝／山地尚枝／吉田樹央

●賛助会費

赤嶋崇／秋元千佳／足立暁／安藤幹雄／安倍はと子／生駒晴代／石田功夫／石山光子／市川晃／伊藤恵理／稲田伊智子／戎野博太郎／大塩節子／大谷保男／大丹生あい子／大野篤一郎／岡光子／小笠原達治／岡田能里子／越智和子／小原俊之／角谷道子／片田欣三／鎌田重明／神谷尚孝／川村忠／喜多榮子／北川從子／北野与志江／北原祐司／清原浩子／際本多市／沓野泰之／久保井一匡／黒木昭子／向野幾世／小島ゆか／小高静／後藤泰子／後藤理紗／

●バングラデシュ指定寄付
佐藤雅子

●ブルーオーシャンプロジェクト
OSGコーポレーション青樹会／ブルーオーシャンレンジャー

●助成金
○ネパール植林
（公社）国土緑化推進機構

○バングラデシュ植林
日本労働組合連合・愛のカンパ

○スリランカ女性自立支援
（公財）森村豊明会

●大阪マラソン寄付（水支援）
熱田典子／祝絢美／祝圭佑／大阪谷正章／岡野浩充／柿島裕／川本順子／木田しのぶ／小林真里子／坂本早己／品川竜生／JA F S寝屋川地区／JA F Sバザールグループ／田口徳子／丹保容子／豊留おかり／中野慎也／西内聖貴

／布川富生／布川理紗子／東桂木真吾／Ra Bhisna／船越果那／船越結花里／溝口和美／森わか子／山崎大／山本千佳／Bhattarai Rabi／タバマガールレジマ／渡辺治彦

●ウクライナ避難民支援
大阪西ワイズメンズクラブ

●トルコ地震支援
新羅和子／日本基督教団洛南教会

●ネパール・ジャジャルコット地震被災者支援寄付
熱田聖子／熱田典子／レデンブトリスチン修道院／佐々木実／シユレスタナニマヤ／東代清隆／島山ひろみ／福井利法／福岡名津子／藤原正昭／本間耕一／松本真弓

小西紀代美／小松良一／近藤十郎／斉田真理子／坂手悦子／佐々木健児／ゆみ子／佐藤美千代／澤田薫／篠田京子／清水利香／庄子幸子／白木和晴／菅洋子／鈴木通文／高浜久栄／立田康雄／田中啓／谷山美和子／FRANWINEミ／堤祐子／壺井香子／坪田秋成／坪田由紀子／中川由美／中川晃／中谷良二／中野通／中村滋／西岡伸康／西山美菜子／千晶・敦記／野瀬田豊／長谷川美穂子／花崎能理子／馬場順子／林祐己／福岡哲郎／古林由希子／星川範子／堀正之／堀内登久子／松江宏・照子／松田和子／松本沙耶香／三重野哲／三上弘志／三木あゆ子／皆笹信二／南光子／宮本益見／三好和香子／村上五郎／安富隆／八束庸子／山本宏昭／横田健／吉岡久江／若山治子／和田隆義

●団体会費
JA F S歩く会／五十鈴ケアセンター／大阪友の会 委員会有志／大阪西ワイズメンズクラブ／（株）オリエティザイン／大成印刷株式会社／ドリアンプランニング／パナソニックインダストリー労働組合／校方・交野国際奉仕活動協会

●法人賛助会費

イオングループ労働組合連合会／（株）ウォーターネット／（株）かんぼう／（株）京進／子どもの平和と生存のための童話館基金／ソフトキープ（株）／パナソニックホールディングスCSR／大阪府連合会

●里親会費

飯田哲雄／石原基義／伊藤恵理／上野孝一／梅田祥仁／大須賀不出子／大原映子／岡光子／越智和子／角谷道子／鎌田勝江／鎌田重明／北野与志江／北原恵美／北原祐司／小高静／後藤雅子／今野裕章／佐藤理香／下村蓮実／白

●フィリピン台風被災者支援寄付
隠岐教会

●集めるキャンペーン
乾聖陽

神博子／武内彩／竹田由美子／田中和子／田中壽美子／谷山美和子／チャリテイショップMAMA／坪倉幸弘／中谷良子／中橋康治・真由美／中山忠愛／西澤純／西山美菜子・千晶・敦記／長谷川雅子／長谷川美穂子／ビグマリオン学院奈良教室／福岡名津子／藤原克彦／増田愛子／水野礼子／南大阪教会／武藤英利矢／武藤三代子／矢口睦美／山下由起／若山治子／和田幸子／渡部司

●コスモニケタン指定
JA F S高槻

●一般寄付

池田直樹／石泉ふれあい味噌工房／井上勇一／岩本郁子／太久保洋子／小原純子／加賀恵美子／川本順子／Zoshtajun／米田明正／柴村壽子／小沢良典／佐藤文昭／佐藤美千代／メ木泰輔／杉崎仁志／ソフトバンクつながる募金／館野晶光／田中爽吾／田山賢一／チャリテイショップKANAU／鳥居建十／西村節子／橋羽和樹／福澤邦治／藤本真穂／眞砂哲志／松原正／松本和也／宮田安希子／森美鶴／山下博／吉松浩一／渡辺貴之／本山和幸

●井戸指定（水支援）
角英樹

●井戸建設積立
JA F Sぞうすいの会／（財）エオサンタ

●井戸建設指定
○インド
鎌田重明／佐登／
M. YEUNG KAM WA（2基）

○カンボジア
鎌田重明／佐登／
M. YEUNG KAM WA（4基）

○スリランカ
佐登／富永信明／（株）ファンシープランニング／M. YEUNG KAM WA（3基）

○ネパール井戸・パイプライン
エーゼル（株）／鎌田勝江／桐山定雄／京都暁星高等学校／柴村壽子／佐登／高木将

○バングラデシュ
佐登／M. YEUNG KAM WA

○フィリピン
京都暁星高等学校／佐登（2基）／
M. YEUNG KAM WA（2基）

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／村上公彦

●アジア・フレンドシップ募金寄付
JA F S歩く会／鳥居京子／鳥居建十／募金支援会

●アジア・ユースサミット寄付
あすなろ法律事務所／小原純子／小原孝彦／澤村和子／寺林公子／富尾貴美代／花房逸子／濱口みどり／山崎桃／リタワークス（株）

●アジア・子ども支援寄付
岩田悦子／松尾慶治

●アジア地域医療支援寄付
佐登／田中寿美

●インド小規模産業育成支援事業
佐藤高

●インド・HIV子どもと家族支援会費
JA F Sいのちの会 校方／苗村登美子

寄付金控除申告用 特定寄付金領収証明書の発行について

1月中旬にかけて、内閣総理大臣による「税額控除に係る証明書」の写しと前年1月1日～12月31日までにご支援いただいた会費（社員会費を除く）・各ご寄付の合計金額の領収書を発行いたします。所轄税務署で確定申告を行ってください。

3月から一緒に働いてくださるスタッフを募集しています

業務内容は、経理・会計業務（公益法人会計）およびそれに関連する業務です。勤務形態は、常勤（週5日出勤、勤務時間は原則10時～19時（時間調整可能））を基本としますが、勤務時間や給与については委細面談の上、決定いたします。ご希望の方やご相談のある方は、事務局まで遠慮なくご連絡やお問い合わせをお願いいたします。
担当：吉田または熱田（☎ 06-6444-0587 Email asia@jafs.or.jp）



ペルシャ文化を伝え続けて

私の祖父、ラヒム・アナビアンは、イランの首都テヘランの目抜き通りに古美術店を営んでいました。その店を日本のオリエント考古学者たちがサロンにして、紀元前の素焼きの動物型蓋や正倉院の御物と同じ白瑠璃碗が売られていました。

奈良に「第二の正倉院」ミュージアムを

ダリア・アナビアンさん（イラン）

活躍する アジア

イラン北部ギラーン州で出土する、ワインを注ぐとルビー色に輝くブリリアントカットの切子ガラスも、店の目玉商品でした。このガラスは正倉院と中国の文献でしか知られておらず、もつと西から来たのではないかと日本の学者は推測していました。日本の調査隊が正倉院と同様の宝物をイランで次々と発掘し、ペル

シャ由来と判明しました。

多くの日本の学者が祖父から古美術品の真贋の見分け方を学び、60〜70年代に多くの本が日本で出版され、ペルシャブームが起きました。大阪の近鉄百貨店の部長と課長が、ペルシャの秘宝を仕入れにテヘランに来て「大阪で商売しまへんか」と誘われ、同百貨店

に「アナビアン・ギャラリー」を開店し、私は両親と共に来日しました。

週末は親の背中を見て店番をし、紀元前土器を玩具にしました。百貨店の古美術愛好家を連れて、紀元前5世紀のアケメネス朝ペルシャの遺跡巡りもしました。

イランの現状に胸を痛める

そんな私のオアシスのような子供時代は、1979年のイスラム革命を境に激変しました。パーレビ国王が追放されて1年後、アナビアン家は迫害を避けるためにアメリカに渡りました。現在のイランは石油大国となりました。

④ペルシャの古陶器などの貴重なコレクションを手に、ミュージアムづくりの夢を語るダリア・アナビアンさん
⑤ペルシャ文化についても、講演して熱弁をふるう



た。しかし、石油の収入はテロ活動に使われ、国民は石油不足に苦しんでいます。水も隣国に売られ、儲けはイスラム独裁政権の懐へ。南部では水道の蛇口から泥水が出ます。古美術品も歴史的文化財も、60万点以上が遺跡や博物館から消えていると言われます。そうした祖国の現状に胸が痛みます。

日本とはるかな昔から交流
日本の奈良時代にもササン朝ペルシャにイスラム軍が侵入しました。ペルシャ貴族は、陶芸家や織子とともに秘宝を持って中国に亡命し、日本にも渡って来ました。

アナビアン家も、イラン中から収集した古陶器コレクションを大阪に避難させました。紀元前の土器や幻のブルー陶器、和の織物に影響を与えた錦などは本来、イラン国立考古学博物館に収まるべきものののです。

ペルシャから正倉院に御物が齎されたように、二度と収集できないペルシャ秘宝を日本の文化財として保存し、1300年前のように、シルクロードの終着点の奈良に、第二の正倉院たる現代の「大ペルシャミュージアム」建設することを、未来のビジョンに描いています。

ダリアさんの略歴 ペルシャ文化伝道士・料理研究家。イラン人の母とイスラエル人の父の下、テヘランに生まれ、1972年に古美術商の両親と来日。神戸の国際学校カナディアン・アカデミー卒業。NHKのテレビ番組「シルクロードロマンの旅」のレ

ポーター、ABCラジオ「旅のハーモニー」のレポーターなどを務める。現在、美術展、講演会など多方面でペルシャ文化を流し、2013年に『千夜一夜のおもてなし〜ダリアのペルシャ料理①』（アートダイジェスト）を出版。

れを考慮できていませんでした。海面水位は元々から地球上の全海域で同じではなく、例えば上空の気圧が低ければ海面は上がります。海水温が高い海域では膨張して海面が上がります。そして気候変動すれば、気圧や海水温、風の状態などが変わるので、海洋循環も変動して海流が変化します。海流の動きが水位に与える影響も加わって、海域によって海面上昇の程度が異なるのです。

過去100年間で海面は世界平均で20cm程度上昇したとされていますが、欧州宇宙機関(ESA)による海域別に海面水位の変化を示した地図を見ると、バリ島の南側の方が北側よりも海面上昇が大きいと考えられており、バリ島一つとっても海面上昇の程度は様でなく場所によって異なるのだと思直しました。また海流や波の動きの変化も考えられることから、島の中で海面上昇の影響が表れやすい場所から浸食が始まっていると言えるのかもしれません。これまでに排出した二酸化炭素の量は、先進国よりも少ない国ですが。

温暖化がこのまま深刻化すれば、世界の平均海面水位は2100年に最大1m程度上昇すると予測されています。日本でもこれまで既に海面が8.7cm上昇しているとされていますが、今後もし海面が1m上昇すると、砂浜の90%以上が失われると予測されています。(JAFSスタッフ 川本 裕子)

環境コラム

ビーチ浸食と海面上昇

9月にスタディツアーに行ったバリ島で、南部のクタビーチのほか、南東部のテガルベサルビーチで、波によって浸食された砂浜を見ました。地球温暖化による海面上昇の影響と現地の人は言いましたが、他の可能性として、陸地から海に砂を運んでいた河川の上流にダムができ、砂の供給が減って砂浜がやせた、とか、沖合にあったサンゴ礁が破壊され波を強く受けるようになった、なども考えられます。そんな目で現場を見ましたが、元々サンゴ礁は無かったとも聞き、原因について明確に見当を付けることはできませんでした。

私は当初、海面上昇はバリ島沿岸全体に同程度に起こっているはずで、島の限定された海岸の浸食の原因とするのは、南の島が沈む＝海面上昇が原因と安直に考えすぎている…と思いました。ですが後で調べてみると、海面上昇について私が誤解していた点があると分かりました。

地球全体で考えると、海面上昇の原因は大きく2つ。1つは気温上昇に伴い海水の温度が上昇して熱膨張、すなわち体積が増加すること。2つ目は、高山の氷河や南極・グリーンランドの氷床が融けた水が海に流れ込み海水が増えることです。

ですが海面上昇の程度（海面水位）は地球全体で一様ではなく、場所によって異なるそうです（実は海面の下降が予想される海域もある）。こ

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費	(高校生まで)	
	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892 【口座名 シャ) アジア協会アジア友の会】

入会・寄付ご案内

会員となつて継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

編集後記

父 親を失い絶望感にさいなまれている子供が日々増えている。彼らにも夢と未来があるのに、関西ウクライナ友好協会のカテリーナさんのスピーチが頭から離れません。争い戦いが無い新しい年を今年も願います。(典)

皆 さんの支援に感謝いたします。皆さんの支援で、多くのアジアの人たちが救われています。今後も皆さんに当会の活動をわかりやすく、迅速にお伝えする努力を行ってまいります。よろしく願います。(金)

昨 夏のわが家の朝顔は、11月中旬まで咲き続けました。急に冷え込む直前まで。秋になっても高温続きだったので、やはり、もはや温暖化…。ちなみにこの朝顔は、宇宙飛行士の山崎直子さん由来の「宇宙朝顔」。(川)

マ ングローブの植林とプラスチックのごみ拾いで訪れたバリ島の黄昏時。水平線の彼方に沈む太陽の輝きが、今も胸に残っています。マングローブが大きくなったところに再訪できればと思っています。(敏)

新 聞記者当時の85年11月。阪神タイガース初の日本一に沸く大阪ミナミの取材へ。道頓堀にダイブした若者に「おっさんも跳び込め」と橋上で襟首を捕まれ逃げ惑った。38年後、再び日本一。彼は跳び込んだかな？(誓)



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会
(JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階
☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp
URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2024年1月 156号 発行人：篠原勝弘 編集人：熱田典子
広報企画委員長：法花敏郎
編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善
編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫
川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self Check 2023



HPもご覧ください

▲白い雲海がふもとの樹林や村落の上空を覆い、地平線の彼方まで広がる。海拔が高いネパールならではの絶景だ。2023年9月、シンドゥウパルチョーク郡インドラワティ村

▲表紙の写真 インドネシア、バリ州タバン県の山村で提携団体が運営する子どもセンターを訪問し、大歓迎を受けた。ドレーもん好きな人？の問いに手を挙げる子どもたち。2023年9月、4〜7ページに特集記事